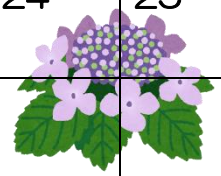


三股町立図書館 図書館通信 2022年6月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6 休館日	7	8	9	10	11
12	13 休館日	14	15 休館日	16 休館日	17 休館日	18 休館日
19 休館日	20 休館日	21 休館日	22 休館日	23 休館日	24	25
26	27 休館日	28	29	30		

6月15日(水)～23日(木)は蔵書点検のため休館です

図書館だより



No. 64

※閉架から全集コーナーへ移動しました※

	代表作
北原 白秋	『待ちぼうけ』 『あめふり』など
志賀 直哉	『暗夜行路』 『城の崎にて』など
幸田 露伴	『五重塔』 『運命』など
海音寺 潮五郎	『平将門』 『天と地と』など
新潮日本文学	夏目漱石 芥川龍之介 など
新潮世界文学	シェイクスピア ゲーテ など



6月15日(水)～23日(木)は蔵書点検のため休館します。

当前、休館中の様子をみなさんが見ることはありませんので、「長く休館して何をしているんだろう?」と思っている方もいらっしゃると思います。そこで、休館中に何をしているのかをご紹介します。

☆蔵書点検とは

検索機で本の場所を調べてそこに行っても探している本がない…という体験したことはありませんか?

本は返却後に司書がきちんと排架しますが、いろんな人が出し入れしているうちに、違う場所に入っていることがあります。

違う場所に本があると、探すのにも一苦労し、利用者のみなさんに届ける時間もかかってしまいます。

なので、年に一度、資料が図書館にきちんとあるか、所定の位置にあるかを確認する作業をしています。

1日目～4日目

専用の機械で1冊1冊本のバーコードを読み取ります。三股図書館では図書資料を約15万冊、視聴覚資料を約6000点所蔵しています。それら全部のバーコードを読み取るので、蔵書点検期間の半分近くを費やします。1日平均で7000～8000点、多い人で15000点のバーコードをなぞっています。

中腰になったり、しゃがんだりしながら作業するので、2日目からは筋肉痛との戦いです。特に閉架書庫は、本棚の高さが約3メートルあり、上の方は脚立にのぼって腕を伸ばし続けるので、とても大変です。また、機械でバーコードを読み取った時に「ピピーツ」と音が鳴ります。読み取り作業中はこの音をひたすら聞いているので、仕事を終えてからも耳から離れてくれません。

蔵書点検あるあるの1つです。



閉架書庫



一般書:小説

5日目～6日目

読み取り作業が終わると、場所エラーが出た本(所定の位置にない本)を正しい場所に戻す作業に入ります。図書館は日本分類十進法に基づいて本を並べています。背ラベルに3桁の数字とカタカナが書いてあるのはご存じでしょうか?基本的にはそのラベルを頼りに本棚に並べています。

それが終わると不明本(所蔵しているのに館内になく、貸出もされていない本)の確認を行います。

小さい本や薄い本は、他の本に挟まっていることがあるので、見落としていないかを職員全員でチェックします。

7日目～最終日

確認作業を終えると、休館中ポストに返却されていた本の返却処理と排架を始めます。同時に、本の移動やラベルの張替えなど、開館中にはできない作業を行います。毎回、蔵書点検前と後で変わっているところがあるのですが、お気づきだったでしょうか?(例えば、本棚の配置が入れ替わっている、展示スペースの場所が変わっているなど)今回もどこか変化があるかもしれません。

休館中、ご不便をおかけしますが、使いやすい図書館づくりのためにご理解・ご協力をお願いします。

